

# 二松学舎大学 ニュース IR

# News IR

IR (Institutional Research/インスティテューショナル・リサーチ) は、大学組織において何らかの決定を行う際に、それをサポートするための情報収集と分析を意味します。

二松学舎大学では、大学の機関活動に関するデータ収集・分析を行い、大学がどのような課題を抱えているのか、その課題はどのような要因と関連しているのか、今後どのような意思決定を取り得るのか等を客観的に把握し、政策形成・意思決定を支援するための活動を行っています。

2025年度 2号 (NO.20)

## Contents

- ◆ 学生の実態・満足度調査の実施について . . . . . 1
- ◆ 二松学舎憲章 . . . . . 4

## ◆2025年度 学生の実態・満足度調査の実施結果について

2025年11月20日～12月10日（最終的に1月19日まで延長）にかけて、「学生の実態・満足度調査」を実施しました。今年度は4年次生のみ回答率向上を目的としてマークシート回答とし、1年次生～3年次生はNishoUNIPA上でのWeb回答方式で実施しました。

### ▶本調査の実施目的

- ①学生生活に対する満足度を定量的に把握すること。
- ②他大学と比較することで、本学の特徴を定量的かつ可視化して認識すること。

### ●回答率について

#### ▼ 回答者数

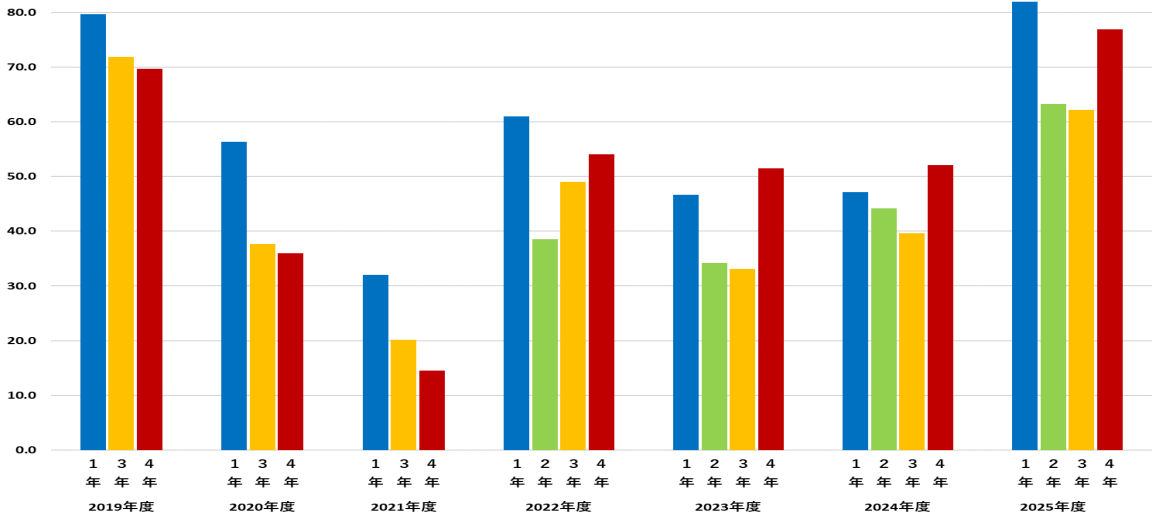
	文学部				国際政治経学部		合計	回答率 (%)
	国文学科	国際日本・中国学科	都市文化デザイン学科	歴史文化学科	国際政治経済学科	国際経営学科		
1年	256	72	47	65	144	73	657	81.9
2年	196	64	34	51	120	37	502	63.2
3年	183	50	27	44	109	50	463	62.2
4年	234	77	41	48	127	63	590	76.9
全体	869	263	149	208	500	223	2,212	71.2

(回答率：回答数／在籍者数)

2025年度の「学生の実態・満足度調査」は、必修授業等の科目担当者の協力を得て、授業内で実施しました。科目担当者からの声かけや、4年次生のマークシート方式への変更、Webアンケートのユーザーインターフェイスの向上等より、回答者数は昨年度に比べ増加しており、全体の回答率は71.2%でした。本学では4年次生に対する調査を卒業時調査として重視していますが、76.9%の回答率となりました。

▼ 回答率の変遷（2019年度以降）

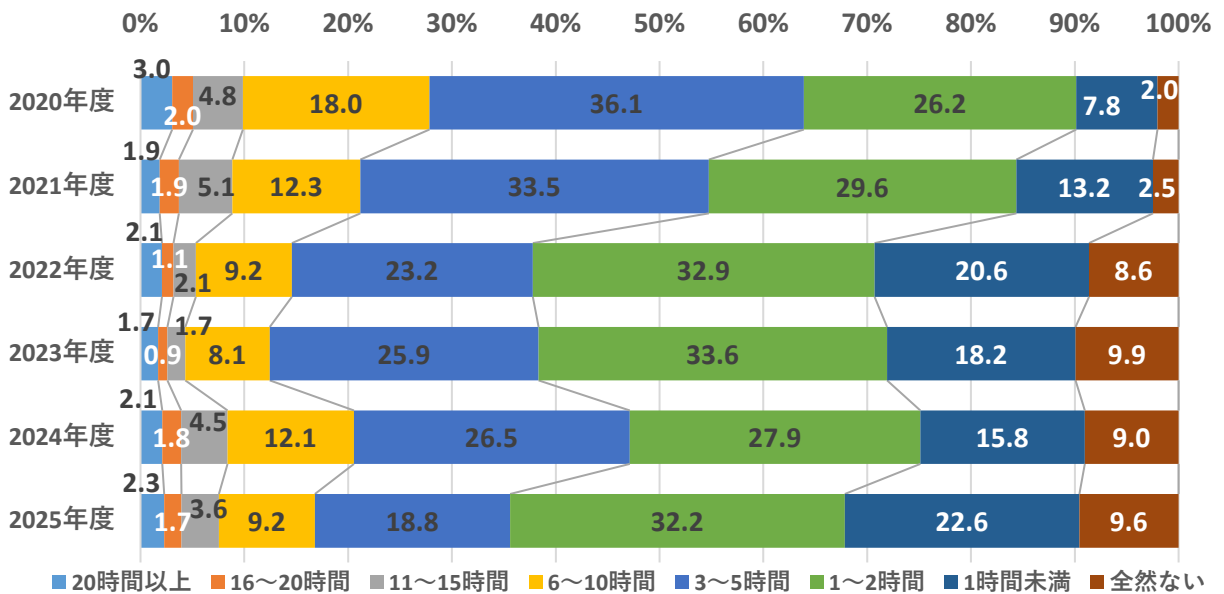
※2年次生は2022年度から実施



回答方法については、2019年度までは全学年マークシート方式、2020年度からは全学年Web方式、2025年度は4年次生のみマークシート方式となっています。2025年度は前年度より全学年で回答率が上昇しました。4年次生はマークシート方式への変更により大きく回答率が上昇しましたが、Web形式の1～3年次生も同様に上昇しています。これは調査に使用したNishoUNIPAが以前のシステムよりも使いやすかったことが原因と考えられます。回答率の向上には、実施方法の改善以外にも、調査への回答が大学生生活の質の向上につながっているという実感を持ってもらうことで、回答が有意義であると学生に認識してもらうことも重要であると考えています。

● 学生の学修時間について

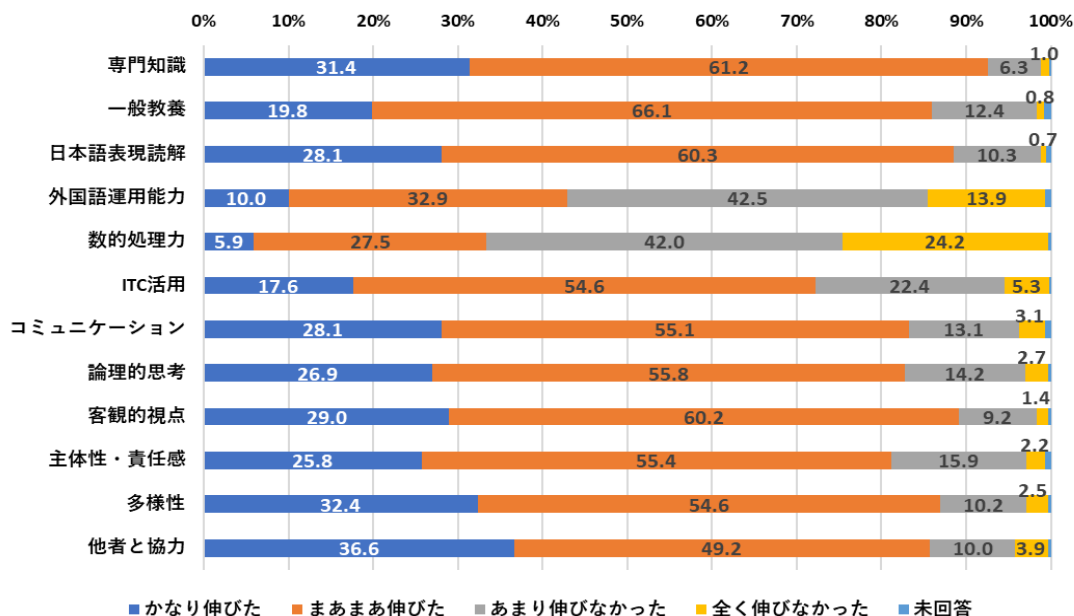
▼ 授業期間中、授業外の学修（予習・復習など）時間は1週間で平均どのくらいでしたか（2020年度、2021年度は2年次生を除く。2022年度からは全学年の回答の合計）



1週間の授業外学修時間に関する設問への回答では、前年度より1時間未満の学生の割合が増加しています。大学設置基準には単位取得のために必要な学修時間が定められており、それに基づけば標準的な2単位の授業1コマあたり前後2時間・合計4時間の予習復習が必要ですが、現状は1コマ分の学修時間にも満たない学生が3割強もいる状況です。単位の実質化が求められている中で、授業はもとより、授業外において学習の動機づけとなる課題や参考文献を提示することなどの努力が求められています。

● 4年次生の学修成果の実感

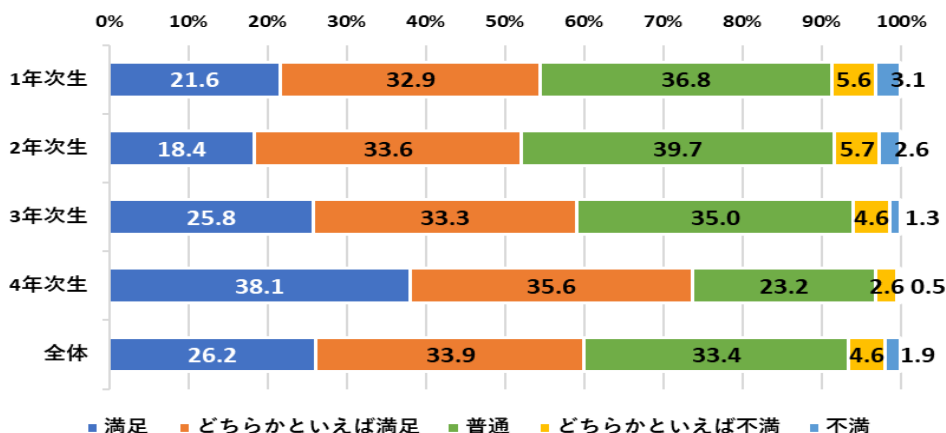
▼学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に定める知識や能力について、「これまでの学修で次の知識や能力がどのように変化しましたか」という設問でどのように回答したかをグラフに表しました。



「専門知識」「日本語表現読解」「客観的視点」では「かなり伸びた」「まあまあ伸びた」と回答した割合が高い結果となっています。一方で「数的処理能力」「外国語運用能力」では「全く伸びなかった」と回答した割合が高くなっています。これらの項目に関しては、例年同じような傾向にあります。

● 大学生生活全般の総合的な満足度

▼学修や施設、設備、学生支援制度などを含めて総合的に「大学生生活全般の満足度はどうですか」との設問でどのように回答したか、それぞれの学年ごとの回答割合をグラフで表しました。



「満足」（満足+どちらかといえば満足）と回答した学生の割合は全体で60.1%で、4年次生では73.7%となっています。今回の調査では、2年次生の満足度が低く52%となっています。2年次生は前年度では58%であり、一般的な「学年が上がると満足度が高くなる」という傾向とは異なっています。その原因を調査するとともに、2年次生の今後の変化にも継続して注目したいと考えています。

一方、「不満」（どちらかといえば不満+不満）と回答した学生の割合は、全体で6.5%を下回っており不満を持っている学生が少ないことが読み取れます。最終学年の4年次生では3.1%となりました。

- カリキュラムや大学の施設・設備について改善してほしいことを自由記述で回答してもらいました。その傾向は次のとおりです。

#### 【校舎・施設について】

- ・ エレベーターや階段の混雑に関するものが最も多く、特定の階をスキップする現在の運行方法や使用ルールなどの運用の見直しを求める意見もありました。
- ・ 九段一号館エントランスの開放を求める要望も多く、それが階段等の混雑緩和につながるという意見もありました。

#### 【授業・カリキュラムについて】

- ・ 履修登録時の抽選制度の不満や取りたい授業が時間割上重なっていて取れないので改善してほしいというものがありません。
- ・ 出席確認の方法について学生の不正行為や遅刻への対応に関するものがありません。
- ・ 5時限以降は休憩時間が短くなるため、次の授業への移動がまにあわないという声もありました。

#### 【学生食堂について】

- ・ 2025年度から業者が替わり全体的に値段が高くなったためか、値段が高いという意見が多数ありました。
- ・ 味についての不満は昨年度に比べ減少しました。
- ・ メニューの配信を望む声もありました。

#### 【設備・備品について】

- ・ 荷物用ロッカーの設置を望む意見が多くありました。特に書道専攻の書道道具の収納場所が欲しいという声が目立ちました。
- ・ 教室環境については、室温調整に対する意見が多く、机と椅子の狭さや修繕が必要なものがあるといったものがありました。

いただいたご要望・ご意見は、すぐに対応可能なものから、抜本的な施設等の改善が必要なため、時間を要するものまで多岐にわたっています。今後の改善に向けて真摯に受け止め、実行可能なものから順次取り組んでまいります。また、対応が難しい内容についても、今後の検討材料として関係部署と共有し改善につなげたいと考えています。

## 【二松学舎憲章】

### <建学の精神の発揚>

- ・ 教職員は、建学の精神「東洋の精神による人格の陶冶」、「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成ス」の発揚に努めます。

### <教育・研究の目標達成>

- ・ 人材育成のため、自らその体現者となるべく、自己研鑽に努めます。
- ・ 法令及び学則を順守し、道徳心と倫理観を持ち、職務に当たります。
- ・ 現状を把握し、自ら課題を見つけ、教育・研究の質の向上に努めます。

### <学生生徒支援>

- ・ 教職員一人一人が、学生生徒の人格と人権を尊重します。
- ・ 教育・研究の充実に常に努め、教育・研究環境の整備を行い、学生生徒の満足度向上を目指します。

### <社会貢献>

- ・ 教育・研究活動を通じて、地域社会への貢献に努めます。
- ・ 社会情勢に常に目を向け、国際社会と世界平和に寄与します。

#### 【発行主体】

二松学舎大学

大学改革推進部 大学改革・IR推進課

〒102-8336 東京都千代田区三番町6番地16

TEL (03)3261-1285

FAX (03)3261-7413

[E-mail] [gakumu@nishogakusha-u.ac.jp](mailto:gakumu@nishogakusha-u.ac.jp)